

校内研究便り No.17

令和6年3月22日（金）
昭島市立玉川小学校
研究推進委員会

校内研究を振り返って

令和6年2月9日（金）の研究発表会では、2年間の研究の成果を児童の姿をとおして実践報告をし、協議会では来場者参加型で意見を交流しながら協議することができました。下記の通り、校内研究全体会で成果と課題について振り返りましたので御報告します。

第11回 校内研究全体会（記録）

日時 … 令和6年3月13日（水）14:30～15:30 於）会議室

1 校長より

- ・ 研究発表、優秀な発表だった。外部からもお褒めの言葉を沢山いただいた。
- ・ 先生方の授業力も一層高まったので、次年度からに生かしていただきたい。

2 成果と課題

学年	児童の様子	成果	課題
1年	<p>生活科 『もうすぐ 2年生』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の回数を重ねるごとに、相手意識を高めながら発表できるようになっていった。保育園児が来た時も自信をもって発表できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元のゴール設定の工夫 →「スーパー1年生」という合言葉のもと、責任感と相手意識をもち、未就学児に伝わりやすくなるように、工夫して表現していた。 ・ 段階的な対話の設定 ・ 「すてきカード」の活用 →グループ間での支え合いが見られ、相手の良さを見付けようとする意識が高まった。 ・ 表現方法の選択 →学習経験をもとに、自分たちの表現方法を選択しさらに工夫する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理やり教師側が引っ張る授業ではなく、必要感をもたせたい。 ・ ゴールへのきっかけづくり →保育園側から知りたいことを聞き取るなど、一方的な発信にならないようにする。 ・ 相手意識の希薄 →聞き手が保育園児の意識をもって活動できるとより良い。 ・ 発表を一步先へ →ICTの効果的な見せ方を工夫する。動画・写真視聴の際の補足説明を加える。 ・ 場の設定 →本番を想定し、同じ場所での活動を取り入れる。
2年	<p>生活科 『動くおもちゃ研究所』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で、直前までおもちゃを作りたいと言っている児童がいた。最後まで工夫していたのが印象的だった。 ・ 自分と違うおもちゃにも興味をもって見に行っていた。 ・ 「こんな工夫をしたよ」ということを沢山伝えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール意識をもたせることが効果的だった。 ・ 単元名の工夫・具体物の例示 →例示を参考に、児童が意欲的に活動し、必要感をもって関わり合った。 ・ 発見タイム・グループ構成の工夫 →発見タイムがあることで、実物を使って友達に説明した。意図的なグループ構成は効果的だった。 ・ 交流時の実物・絵や図による振り返り →実物があることで、説明がしやすかった。絵や図で振り返ることで、意欲的に描く児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発見タイムの必然性 →発見タイムに必然性をもたせ、意欲的に取り組めるようにする。 ・ 発見タイムの充実 →発見タイムの時間を増やし、関わり合いの時間を充実させる。 ・ 振り返りの視点の明確化 →振り返りの視点を明確化することで、めあてをもとに振り返りをできるようにする。 ・ 振り返り時間の確保 →振り返り時間を増やし、次時の活動への意欲付けとしていく。
3年	<p>体育科 『つなげ！ キャッチボール』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表当日、オフザボールの動きがよくできていた。 ・ 作戦タイムもタブレットをうまく活用していた。 ・ 消極的な児童も、発言することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みやすいゲーム ・ 総当たり戦 →児童の実態に応じたルールを設定することで、やりたいという気持ちを高めることができた。総当たりにすることで、試合数が増え、より勝利への意欲を高めることができた。 ・ 毎時間のチームタイム ・ チーム人数の工夫 →毎時間作戦タイムをとることで、勝利のために友達の意見を多く取り入れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑なルールを正確に理解することに時間がかかった。 ・ 毎時間のチームタイム →チームの中で話す児童が固定化されていた。 ・ ホワイトボードの活用 ・ 試合を撮影し、振り返りに活用 →ゲーム中のオフザボールの動きを確かめるために動画の確認が必要不可欠。撮影する部分をチームの中で分担することで試合状況をより詳しく分析することができる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードの活用 ・試合を撮影し、振り返りに活用 →ホワイトボードやジャムボードを活用することで活発に活動することができた。 ・良い動きカード →前時の振り返りや作戦タイムで活用することができた。 	
4年	<p>音楽科 『オリジナルチャイムの旋律をつくろう』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適当に作った子は一人もいない。どの子も思いや意図をもって作成していた。 ・「テンポ」や「音色」など、音楽的用語を使って説明ができるようになった。 ・アプリはイメージを視覚的に表すことができるので、ゲーム感覚でできて楽しそうにやっていた。 ・集中できない児童も、ペアの子がいることで協力して作成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムとして流れる使命感 →責任感と相手意識をもって、友達と協力して旋律作りを行っていた。 ・ペア活動での音楽作り →個人で作るよりも多様なアイデアを出し合うことで、より説得力のある旋律を作ることができた。 ・ワークシートや音楽 Web アプリケーションの活用 →作りたいチャイムのイメージを視覚的に捉え、音楽に表すことができていた。 ・音楽の要素を選択する「チャイムの設計図」 →音楽的な見方・考え方を理解して、友達と相談しながらチャイムを作成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作りたいチャイムの選択 →今回はある程度チャイムの場面を指定したので、作りたいチャイムの場面を選択できるようにする。 ・様々なペアとの交流 →隣のペアだけでなく、様々なペアと交流したり、全体で共有したりするなどして多様な考えを知る場面をつくる。 ・選んだ音階に対する「思いや意図」の可視化 →選択するだけでなく、思いや意図を書く欄を作り、話し合いに生かせるようにする。 ・振り返りの焦点化 →今回の活動を通して自分の考えがどのように深まったか振り返らせるよう工夫をする。
5年	<p>社会科 『未来とつながる情報』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かなり時間をかけて発表の準備をしていた。 ・色々な先生に見てもらえるということが、子供たちのモチベーションを上げていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学での事前学習 ・「メディアの取扱説明書」の作成 →それぞれのメディアについて興味をもちながら考えることができた。 ・グループ構成の工夫 ・ブース型発表形式による発表 →それぞれのグループが自発的に発表準備をすすめる、工夫して発表することができた。 ・ジャムボードによる意見共有 ・二次元座標軸の活用 →視覚的に捉えやすくなったことでそのメディアの特徴について具体的に考えやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師主体ではなく、児童の思いを汲み取って児童主体の構成にしたい。 ・聞き合う時間をもっと取れるとよかった。 ・児童主体の授業構成 →教師の願いだけでなく児童の願いも取り入れる。 ・他のグループとの交流 →自分のグループだけでなく様々なグループと意見共有をする。 ・二次元座標軸の比較検討 →何を比較させるべきか子供の実態に応じて考える。
6年	<p>国語科 『わたしたちはこうやって生きていきたい』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに説得力をもち、批判的思考をもちながら、ドキュメント上で自分の考えを表すことができていた。 ・日常でも、批判的思考をもって自分の考えを表すことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に自分の考えを伝える →卒業後のこれからの自分についてを真剣に考え、応援してもらうことができた。 ・批判的思考をもった関わり →自分の考えがうまく相手に伝わっているかを確認することができた。 ・Google ドキュメントへのコメント →多くの友達からコメントをもらい、訂正前後の文章を見比べることができた。 ・友達同士での推敲 →教師に見せる以上に真剣に書き、見合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールやミッションの設定 →児童自ら設定できるように計画できると更に良い。 ・単元における関わり合いの設定 →ゴールに見据えた関わり合いになっているか。道を外れないように支援する。 ・考えを整理するための可視化の方法 →児童が自分の考えを正確に相手に伝えるためのツールを自分で選択できるようにしたい。 ・話す以外の関わり合い →新しい指導観を教員がもつことが必要。

3 研究発表反省・次年度の研究に向けて

- ・ 研究発表の内容やスタイルについては、肯定的な意見が多く見られた。
- ・ 小規模校であるため、発表に向けての負担はあったが、学びも多くあった。
- ・ 今後の研究の進め方については、これまでの成果を引き継ぎながら、持続可能な校内研究のあり方を模索しながら見出したい。

4 講師インタビュー

- ・ インタビュー動画視聴 ※職員から寄せられた質問に講師の今野貴之先生がビデオメッセージで返答してくださった。

5 副校長より

- ・ 今野先生の動画を参考にして、次年度からの教育観を高めていきたい。自分でできることから実践していく。
- ・ 児童に、授業での学びを自分の知識を総動員して可視化させ、良い表現をした児童の作品は積極的に他の児童に示していくと良い。
- ・ 今年度作ってきた研究は、絞りながらより深めていきたい。